

2022-9-1
No.1080 500円

思想運動

特集=安倍国葬反対 各分野からの発言 2~4面
岸田政権下の経済状況と労働者の闘い 5面
沖縄知事選 玉城デニー-知事再選を(伊波洋一) 6面
中国の「人類運命共同体」望む世界(伊関要) 7面
東アジア・ピープルの地平(高井弘之) 8面
連載=『神聖喜劇』紀行 対馬への旅 9面
ヒメ=トルコの革命詩人ヒクメット 10~11面

八鳥とさそりのたたかい(一九七六年 青森県八戸市湊中学校養護学校生徒一五名による共同制作「指導:坂本小九郎」関連記事114面「頂門一針」)



「坂本は八戸市で1950年から生活版画・生活綴方を教え、湊中学校では障害児の特性に合わせて作品に参加する共同制作を指導した。産業構造が変わり子どもにとってのリアルが変化していく時代にあつて、子どもたちのイメージのリレーでできた『現代の民話』ともいふべき本作のファンタジー性は、多くの人びとの心を打った」(町田市立国際版画美術館「彫刻刀が刻む戦後日本 2つの民衆版画運動」展の図録より)

「安倍国葬」の閣議決定に対して、差し止め訴訟が提訴され、多くの団体が反対声明を出し、集会やスタンディングなどの運動が各地で取り組まれている。それを受けて世論調査でも国葬反対が半数以上に押し上げられた。旧統一教会との癒着スキャンダルの影響も加わり岸田内閣の支持率も急落している。

しかし岸田は「議員個人の問題」だと党内の調査すら行わない。……なにせ三年は安泰だ。「統一教会」ネタにもほどなく飽きるだろうし、国葬は一過性のイベント。当日になれば「要人来日」で盛り上がりすぎて忘れる。支持率はまだ三割以上あり、国葬にも四割が賛成している。戦争法制でも、共謀罪でも支持の割合はもつと低かった。無視してもなんの問題もない。改憲は既定路線とおりだ。……TV画面に映し出される岸

「安倍国葬」の意味 なぜ、かれらは「反共」を掲げるのか

田他自民幹部連の顔からはそんな本音が読み取れる。ここ三〇年の身の回りを振り返ってみる。消費税は上がりつづける。消費財は下がりつづける。OECDの中でも日本だけがマイナスイ。毎日スーパーでは少しでも安い値札に気を配り、添加物に気を配る余裕はなくなった。病院でも余剰はなくなった。病院内で「二〇二〇キミと生え続けている駅周辺があるいっぽうで、近所には空き家が自立つ。しかし住む家すらない人は増えた。「人不足」のはずなのに安定的仕事は見つからなくなった。退職後のささやかな自由も年金とともに奪われた。子育てが一段落するのにも東の間、親の介護のしか

ペロシ訪台と台湾海峡危機 「台湾有事」を煽っての戦争策動反対

「火遊びをする者は必ず自らを焼く」——これは習近平・バイデン電話会談(七月二十八日)におけるペロシ米下院議長の見解だ。この訪台計画について「今はよいアイデアではないと軍は考えている」とまるで指導責任を放棄するような発言を行ない、三種分立の優位性を説きながら実質的にはこれを否認したのである。

こうして強硬姿勢を堅持しアジア歴訪に向かったペロシを乗せた軍用機は八月二日、南シナ海を迂回するようにインドネシア上空、フィリピン東沖を通る大回りのルートで今回最大の目的地、台北に向かった。沖縄嘉手納基地からはF15戦闘機八機と空中空輸機五機が警戒のため台湾に向か

理由ではないのか。「安倍国葬」は憲法の「思想信条の自由」「宗教の自由」「法の下の平等」などに照らして間違っている。それはそうだが、しかし労働者階級としての「善」と「悪」が逆転させられている中であつては、それだけを唱えても人民・労働者階級に訴える力は弱いのではないか。必要なのは、その自由や平等は「誰にとってのものなのか」を問ひ、労働者階級にとっての不自由であることを主張すること、つまりわれわれの階級性を前面に出し反駁することではないだろうか。

「第三次台湾海峡危機」(一九九五-九六年)を超える台湾海峡を封鎖する過去最大規模の演習だ。これは「一つの中国」原則を空洞化させようとする米日台の「台湾獨立」勢力にたいする習近平指導部の強い意思を示したものだと思われる。

現在の台湾海峡問題は、サンフランシスコ講和条約と日米安保条約、日華平和条約の戦後体制のなかで、「戦後未解決の諸問題」のひとつ、「台湾」処理問題に淵源がある。カイロ宣言、ポツダム宣言において明記された日本帝国主義が盗取した台湾ほかの中国にこそ大きく前に進めよう。

「台湾有事」は「日本有事」と煽り、「敵基地攻撃能力」の保有、憲法改悪と軍事費増大、軍拡路線と人民収奪の道を歩む支配権力の欺瞞性を暴く活動が喫緊の任務だ。台湾海峡危機を口実とする戦争策動を決して許さない闘いを、日中国交正常化五〇周年の年にこそ大きく前に進めよう。

【達坂秀人】